

牛はどんどん進化する。

◎畜産試験場(合志町)
畜試阿蘇支場(阿蘇町)にて

毎日の食卓でお馴染みの牛乳や牛肉も、消費者の陰では、様々な努力がなされています。現場を見て、えっ！すごい！と感嘆符だらけのママさんたち。台所を守る主婦でもありますから、うなずく瞳にはシビリアなものがありません。

探険隊 とっても広いところですね。

—— ええ。敷地は140ヘクタールのうち、約50ヘクタールが飼料畑です。阿蘇支場は392ヘクタールの用地にホルスタインや肥後の赤牛が320頭もいるんですよ。探険隊 牛だけじゃないんですか。

—— この試験場には、豚とめん羊もいますが、阿蘇の支場は牛だけです。実は、昭和65年度をめぐりに、ここに農業の試験研究施設を統合して、『農業研究センター』を作る計画なんです。農業公園も作りますので、その時はぜひ来て下さい。

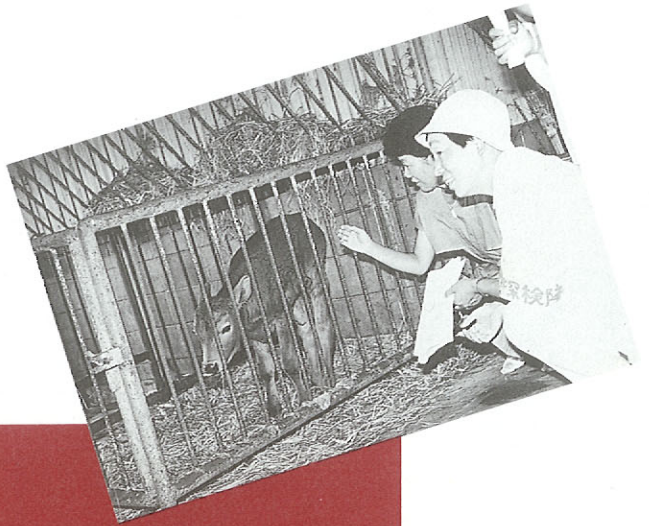
探険隊 農業公園？
—— はい、誰もが気軽に遊びに来て楽しめる場所にするんです。熊本の農

業の歴史を知る農業館やフラワーセンター、ふれあい牧場を作り、農業や畜産に親しんでもらおうというものなんです。搾りたての牛乳や、もぎたての果物を食べたり、バーベキューコーナーなども考えています。

探険隊 うわあ！面白そう。出来るのを楽しみに待っていますから、頑張ってください。

—— より良い家畜を作るための品種改良や飼料の開発といったところです。

—— はい、良い肉のとれる牛を低コストで作るか、良い肉のとれる牛を低コストで作るか—— そのために、受精卵の保



わかれけけママさん探険隊

探険隊 ああ、そうやって、安くておいしいお肉がたくさんできるようなになると嬉しいですね。

探険隊 乳牛がたくさんいますけど、お乳を出すくらいだから、当然、雌ですよ。雄はどうなるのかしら…。

—— 種牛以外は、ほとんど肉用になります。

探険隊 えー、私たち乳牛を食べていたんですか。知らなかった…。

—— だから、乳牛をいかにおいしい肉牛に育てあげるかも一つの課題なんです。

探険隊 雌は、どれくらいでお乳を搾れるようになるんですか。

—— だいたい生後24〜25カ月ぐらいは、子供を生ませますから、その辺りですかね。

探険隊 乳牛も子供を生まないと乳は

出ないんだ。考えてみるとそうよね。それを人間がもっているんですね。

何の予備知識もなく伺いましたので、今日は本当に驚かされることばかりです。試験場というと何だか遠い存在のような感じがしていたんですけど、けっこう身近なものなんですね。いろいろと勉強になりました。

● ● ●
合志町の試験場のあとは、阿蘇外輪にある支場へ。広い広い緑の中、熱っぽく放牧の説明をしてくださった田口支場長は「目がかわいい！」と探険隊の人気者。生まれたばかりの仔牛になつかれてしまったり、牛の散髪を見せてもらったり。帰りには野草のヒゴタイをいただき大喜びで、賑やかな一行は阿蘇をあとにしました。

田中君代さん



松坂明子さん



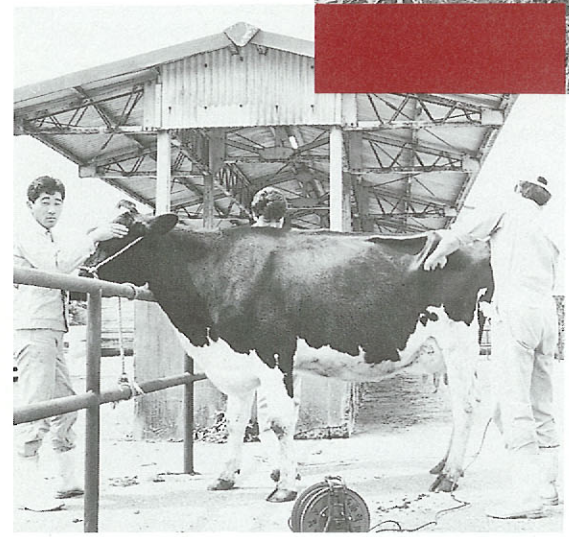
川神知子さん



場長、支場長をはじめ、出会った職員の方々の優しい目が印象的でした。畜産の効率化と品種改良という、半ば人間のエゴの犠牲となっている牛たちに、限りなく愛情を注いでおられるのが分りました。自然の神秘と人の作り出す高度な科学技術の凝縮が、この試験場のいたる所で見られ、牛乳や牛肉に改めて感謝の気持ちを持ちました。「肥後牛。が国内だけでなく、世界的にも評価されるように、頑張っていたいただきたいですね。」

▲来たるべき自由化に対処するため、食べたエサの量から排泄物の量までチェックして、効率的な育成の研究をくり返しておられる職員の方々には、頭が下がりました。また、モウソウ竹・イ草・ミカンの搾りかすが飼料として実用化されていることを初めて知りました。受精卵の凍結保存や、交配の技術などのバイオテクノロジーの進歩には、ただ驚くばかりです。「阿蘇の野草を場内に増やし、観光牧場やキャンプ場を作りたい」と夢をふくらませている阿蘇支場長や、若い研修生の真剣な仕事ぶりに、熊本県の力強い畜産を感じました。

■期せずして牛の人工受精の様子を見せてもらいました。その神秘性と、必死に作業に取り組んでいた研修生の姿には、胸をうたれました。新しく生まれ変わろうとしている畜産試験場は、とても楽しみです。四季折々の花が咲きほこるフラワーセンターや、コンサートもできるイベント広場もできるそうですが、何よりも試験場の開放がありたいですね。お肉の味は知っていても、家畜がどんなふう育てられているのかを知らない子ども達に、ぜひ見せてあげたいです。



県庁すっごい

お弁当持って
出掛けましょう!

県庁正門
イチョウ並木



秋。県庁前のプロムナードは黄色いジュータンを敷きつめたよう。肥後54万石になみ植えられた54本のイチョウ達は、道ゆく人にハラハラと、花ふぶきのように葉を散らします。一人で散策するもよし、恋人と語り合うもよし。子供たちと遊ぶもよし。イチョウ並木はきっと皆さんを歓迎しますよ。